

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都台東区蔵前 4-16-10
園名	アスクくらまえ保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生活と音

<テーマの設定理由>

- ・テーマ設定にあたり職員で話し合った際に「これ、面白そう」「子ども達と一緒に探究してみたい」「どんな気付きや反応があるかな」と惹かれ、去年はオノマトペについて探究し今度は音のない世界や音のもたらす力について探究したいと感じた為。
- ・以前より日々の保育に「手話」を活動に取り入れている為、子ども達にとっても馴染みがあり、今回より発展した探究をしていきたいと考えた為。

2. 活動スケジュール

6月から2月まで行い、月に一度おんがくの講師による専門的なアドバイスをもらい探究活動が出来るようにした。子ども達の興味・関心をもとに問い掛けや内容を考え、子ども達の反応や言葉によって探究活動への繋げ方を柔軟に変えて行った。
6月(サウンドマップ作成) 7、8月(生活音、身体の音)
9、10月(手話クイズ～物の名称～)
11月(楽器) 12～2月(手話をしながら歌う)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ミニのびのび手袋(手話をしながらの歌を発表会で披露する際に、子ども達から「お客さんがよく見えるように」手元が見えやすいように演出として着用)
- ・音楽図鑑(探求活動で名前があがった楽器について図鑑で確認。クラスの本棚に並べて日常的にも見る事が出来るように設定した。音の出る仕組みについて仲間分けでの記載もあり色々な楽器を知る機会にもなった)

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

- ・最初の導入として日常の中での音探しを行い、音に意識を向ける環境を作った。また、目をつぶって聞くことで、音からどんなことが分かるかを考えてみる。
- ・グループごとに楽器を使って音の大きさや、声の大小について実際に音を出しながら拍子打ちを行い、他の音(ピアノ)に合わせて音を出すにはどうすれば良いかを考えてみる。
- ・言葉を手で表現するにはどうしたらよいかグループごとに考えてみる。

探究活動の様子：

- ・園内を探索してグループごとにサウンドマップを作成した。その中で、(屋上にて)「どんな音がする?」「ヘリコプター」「救急車ピーポー」「あっち車の音」「バイクも!」、(園内にて)「掃除機ビューン」「お箸カチャカチャ」等、気付いた音を互いに教え合った。
- ・声や身体の音に目を向けていった。また、目をつぶって声を聞き、どんな気持ちで言ったのか想像した。また、グループごとに前へ出て一人が声を出し、誰の声か皆で当てるゲームを行った。

「○○ちゃんと○○くんの声は同じ?」→「違う」「全然違う」「いつもお話しているから分かるよ」

「何で違うの?」→「顔が違うから」

「大きい・小さい・高い・低いがあるよ」→実際に音を出しながら確かめる。

- ・キャストレッスンの日に教えてもらった『赤鼻のトナカイ』の歌の手話を振り返った後、『お正月』の歌の歌詞をグループごとに考えて発表した。

ふりかえり(保育士の気付き)：

- ・音探しの活動を通して、色々な場所に於いての音について興味を持って聞き、互いに教え合う会話が聞かれるようになった。また保育室の中にある物を使ってグループごとに好きな音を探す活動では、子どもたちから様々なアイデアが出ていて、音に着目する活動から、こんなにも多くの気づきがあるのだと感じた。
- ・「手話」というと難しいイメージがあるが、相手に伝える手段の一つとして話をしたところ、子どもたちの理解が深まったと感じる。また手話について考える経験から、様々な人がいる事を知り優しい気持ちで受け入れたり、接したりすることに繋がる良い機会になったと感じる。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

- ・最初の導入として日常の中での音探しを行い、音に意識を向ける環境を作った。(サウンドマップ)
- ・「聞こえない」とはどういうことか？声以外でどうやって相手に伝えられるか？手話って何だろう？をグループごとに考える機会を設けた。
- ・手話クイズで動物や色などの手話を知る機会を経て自分の名前の手話に興味を持ち、グループごとに一覧表を見ながら各自の名前の手話を探す。

探究活動の様子：

- ・屋上で聞こえてきた音が何でどこから聞こえてきたのかを絵に描いて記録し、グループごとに発表した。(音の大きさや聞こえてきた距離なども絵を使って発表)
- ・椅子に座って耳をふさぎ、他の人から情報をもらう。椅子に座った人の後ろから車が近づいてくることを大きな声を出して伝えようとしたが、耳を塞いでいて聞こえないため伝わらない為、前方から指差して伝えたり、口を大きく開けて伝えたりと工夫する。その流れから“手話”という手段がある事を知り、どんな手話があるか興味を持つ姿が見られた。
- ・グループごとにジェスチャーでクイズを出す。
ふわふわした動きを手で表現したり鼻をかんだりする動作を行う。→ティッシュ、部屋のタイマーを見たり壁の時計を指さしたりする。→タイマー、飲む動作や美味しそうな表情をする。→ジュースなど。
- ・一覧表を基にグループごと一人ひとりの名前の手文字を探す。「“あ”は、こうだよ」「ちっちゃい“つ”はどうするんだっけ？」など互いに教え合いながら自分の名前を見つけしていく。自己紹介では忘れてしまった子に同じグループの子が教える姿が見られた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

- ・大好きな曲や馴染みのある曲に合わせて手話を行うと、手話で表現している言葉の意味も理解しやすく、子ども達にとってもすぐに入りやすく、良いと感じた。手話の一つひとつの意味も、知っている曲と連動して覚えたことで子どもたちも思い出しやすい様子だった。
- ・手話は、これまで年長児が活動に取り入れ、真似して行うことはあったが、自分たちがその意味を考えて、行うのは初めてだった為、口から発する「ことば」だけが、「ことば」ではないという事も知ることが出来た。

【5歳児実施分】

問いを考える：

- ・音のない世界はどんな世界か？をグループごとに考える。
- ・部屋にある物を身体で表現して友だちにあててもらおう。
- ・音が無いと困るものは何かをグループごとに考える。
- ・手話でどんなことが出来るかグループごとに考える。

探究活動の様子：

- ・音の無い世界を考える→「静か」「楽しくなさそう」「テレビの音が聞こえない」
 - ・実際に耳をふさいで口の動きだけで話す→口を大きく開ける、ゆっくり話す、近づいて話す
 - ・避難訓練の様子を身体で表現する。→ヘルメット、給食の準備や着替える仕草をする。→エプロン、絵を描いたり色を選ぶ仕草→クレヨン、絵本を読む仕草→本
 - ・「もしも音が無かったら困るものって何があるかな？」→消防車のサイレン、パトカーのサイレン、声、ピアノ、踏み切り、電車、電話、テレビ、お店、歌、マイク、笛、火災のベル
 - ・上記の中からいくつかを選んで自分たちで体験した。
 - ・お店(話さずにお店屋さんごっこ)→「物が買えない」「いらっしゃいませが言えない」「間違っちゃうかも」→「指で伝える」「口の形で伝える」「手話」
- 避難のベル(耳を塞いで聞こえないグループと聞こえるグループに分かれて行う)→「おいで行かれた」「逃げる人にぶつかった」→「聞こえる人が連れて行く」「看板を作る」「誘導してあげる」「手話をする」
- ・グループごとに新年の挨拶の手話を考え、順に前へ出て披露する。その後、正解の手話を教えてもらおうと「知らなかった」「何でそうなるんだろう？」と意味を気にする姿が見られた。→なぜ、その動きなのかをグループで考える。

ふりかえり(保育士の気付き)：

- ・身体を使って、「もの」を表現する際には、動きが豊かになればなるほど正解する子が多かった。
- ・手話は、季節の歌や馴染みの歌を題材に行った事で子どもたちも分かりやすく、また、そこから「何でこの動きなんだろう？」という疑問が自然と子どもたちの方から出てくるようになった。

5. 活動の様子が分かる写真

3 歳児



4 歲兒



5 歳児



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都台東区蔵前 4-16-10
園名	アスクくらまえ保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

動物を体で表現する

<テーマの設定理由>

園の近くに大きな動物園があり、子ども達にとって「どうぶつ」がとても身近なものであり、これまでも動物をテーマに行事や活動を行ってきた。

普段の体操プログラムでも動物になりきって体を動かすことが大好きで、様々な動物になりきり、表現する中で、自身の体を知り、仕組みや構造についても興味を持てるようにするため。

2. 活動スケジュール

6月から2月まで行い、月に一度たいそうの講師による専門的なアドバイスをもらい探究活動が出来るようにした。

6月→動物の種類、分類分け（海の生き物、陸の生き物、空の生き物など）

7月～9月→動物の動きについて（挙げた動物の動きを表現する）

10月～12月→動物の走る、ジャンプについて探究する

1月～2月→動物の部位の力の入れ方、すくわく活動の振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・アニアわいわいセット（動物の体の作りを知る）
- ・Aセット動物園のお友だち（動物の形や色を知る）
- ・動物図鑑（動物の形や色を知る）
- ・まどあけ図鑑いきもの（動物の形や色を知る）
- ・木製動物トイアニマルズ（動物の動きを知る）

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

グループごとに、みんなが知っている動物を思い浮かべ、種類や、仲間分け、どこで生活しているか、陸と海と空に分類をし、それぞれの動物の動きを考える。動物によって力がかかる部分や動きの違いを見つけて、実際に自分たちで身体を動かして、動きの違いや動物の特性を知る。

探究活動の様子：

みんなが知っている動物は何か？の問いかけに、絵本や図鑑を用いてグループごとに調べ、自分たちの知っている動物を挙げていく。次にその動物たちがどこで生活しているかを考える。陸、海、空で生活していることの答えを出す。何で空を飛べるのかと問いかけると「鳥だから、羽があるから」と答える。犬は跳べるのかと問うと「飛べない、羽がない」などと次々に知っている知識を挙げる。グループごとに図鑑や写真を見ながら動物の動きや特徴を探し、実際に自分の身体を動かし真似てみる。サル、コアラ、ウサギ、ライオン、キリンの動きを行い気が付いたことをグループごとに発表する。その中でそれぞれ動物によって走り方や動き方が違うことに気が付く。サルとゴリラの違いや、「キリンは首が長いがゾウは鼻が長い」などを見つけ出す。より動物の動きを覚えるために動物のジェスチャーゲームをしながら8種類の動物の動きや特徴を覚える。その中で次にジャンプする動物に注目をして、動物によってジャンプの仕方が違うことを探す。跳び箱を使い、ジャンプする時にどこに力が入っているかを考える。「足で蹴る、膝を曲げる」「腕を使う、手を大きく振る」などを見つけていく。ジャンプの仕方に目を向け、遠くにジャンプする動物と高くジャンプする動物を探す。「カエルは上に跳ぶ、ウサギは遠くに跳べる。」「サルはジャンプをするけど手も使ってぶら下がりながら遠くにいくよ」と力を入れる箇所が足や手を使っているとわかる。「コアラは足と手の平を使う」という意見出たので実際に鉄棒を使い自分でぶら下がり、他にも「足、膝、ふくろはぎを使った」などと発見を伝える。すくわく活動の中で動物の動きの違いや特性を見つけて身体の部位の動きの違いを知る事ができた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

動物を一つずつ挙げて考えていくことで子どもたちもイメージしやすかった。動物の動きになると固定概念で保育者も子どもも動く形になってしまった為に動画などを取り入れたらもう少しイメージが付きやすかったかと思う。後半になると自分の考えや発見を自分の言葉にして伝える姿もあったが、まだ説明し伝えることが難しい子もいるので難しい面もあった。身体の使い方を知り、力を入れる感覚や場所を体験できて良かった。動物の真似をしながら楽しみながら学べた。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

みんなが知っている動物を探し、海の生き物と陸の生き物などに仲間分けをし、どこで生活しているか、それぞれの動物の動きを考える。動物によってジャンプや走る速さの違いを探究していく。

探究活動の様子：

みんなが知っている動物は何かをグループごとに図鑑や絵本を使って探す。その動物たちが海の生き物か、陸の生き物かを考える。「ウサギ、ライオン、イヌ、トラ、カマキリは陸の生き物」で「イルカ、クジラ、クラゲ、魚は海の生き物」と挙げていく。陸の生き物と海の生き物に分けてそれぞれグループごとに「ウサギはピョンピョンはねている。」「ワニは、ゆっくり近づいてくる。大きなお口を開けている」などと動物の動きを考えて表現する。動物の動きの中でジャンプの仕方の違い、速さや座った時の姿勢はどうかにも注目をする。「バッタは足を曲げて跳ぶ」「カエルは両足と両手をついて跳ぶ」「カンガルーとウサギは手を前にして跳んでいる」と同じジャンプでも動物によって跳び方が違うことに気づく。次にジャンプをする動物に注目をする。ジャンプをする動物を探しどのようにジャンプするかを実際に動物に真似て体験して考える。どの動物のジャンプが高く跳べて跳ぶ時にどこに力がかかるか問いかけられグループごとに考える。「手に力がかかっていると思う」という答えから実際に鉄棒を体験し、ぶら下がった時には腕の力や握る力が必要だと学ぶ。また、鉄棒やマットで力を入れるためには足を開いたり、チョキにするなど足の使い方をさがしていった。

ふりかえり(保育士の気付き)：

はじめは動物の名前を挙げたり、どこで生きているかを発表することは出来ていたが、動きや鳴き声のクイズ、どこの筋肉を使っているか、重心はどこなのかなど具体的にもっていかないとなかなか探究心に繋がらず難しい場面もあった。鳴き方や、動きの手本を見せると回数を重ねるうちに次々と発見を伝えるようになった。同じ動物でも違う視点から捉える子もいれば、他児の真似をする子など様々だった。鉄棒やマットを使うことで子どもたちにも具体的に伝わり探究に繋がったのでよかった。

【5歳児実施分】

問いを考える：動物の表現ってどんなことかな？どんな動物がいるかな？と問いかけそれぞれが知っている動物をグループごとに考え発表する。その動物をグループごとに、陸、海、空と生きている場所を分類し、それぞれの動物の動きに注目をする。動物の動きをグループごと図鑑や写真を見ながら考えていく。ジャンプする動物としない動物の違い、4足歩行の動物と2足歩行の動物の違い、ジャンプの仕方の違いなどを探究していく。

探究活動の様子：動物の表現ってどんなことかな？問いかけに身近な動物（ネコやサル）などの動きや鳴き真似をする。図鑑や写真を見ながらグループごとに「ウサギ、サル、レッサーパンダ、ゴリラ、ペンギン、イノシシ」などと24種類の動物があがる。次に動物を陸と海の生き物に仲間分けをする。グループごとに仲間分けをした動物の動きの真似をする。「ウサギは耳を作ろう。チーターは四つん這いに走っているね。ハムスターは歯が出ているからこうやって表現しよう。」などグループごとに相談し発表する。次に、似た動きの動物についてグループごとに話し合い考える。動物の動きでよく出てくるジャンプについて探究する。「ウサギを表現する時は手を耳にしているけど、カエルを表現するには手を床につけているね」と違いを発見していく。「ジャンプも高く跳ぶジャンプと遠くに跳ぶジャンプがあるね」と気が付く。「4本足で動く動物と2本足で動く動物もいる」と様々な違いを発見していった。実際に走って走り方の違い、速さの違いを考え、ジャンプをしてどのようにジャンプしたら高く跳べるか、遠くに跳べるかを考え身体のどこに力が入っているか、身体の使い方、力の入れ方を考える。「足を曲げていた、膝を曲げた、声を出した」など自分たちで実際に行いながら考え学びを深めていった。

ふりかえり(保育士の気付き)：

動物は身近なものなので、子どもたちもよく知っており探究しやすいものであったが、話し合いや自分たちで考えるとなると援助や言葉でのフォローが必要な面もあり、保育者も苦戦した部分もあった。具体的な例を挙げると子どもたちも理解している様子だった。鉄棒やマットなど実際に身体を使いながら進めていくことでわかりやすかった。今回動物について色々な表現や探究する中で、力がかかる部位や重心などを子どもたちが考えて答えを出すことも出来てよかった。遊びや運動の中で体をたくさん動かして今後活かしていきたい。

5. 活動の様子が分かる写真

3 歳児



4歳児



5歳児



枚以
りて、

